

第3回 光駅周辺地区拠点整備基本構想検討会議 会議録

日時：平成30年4月5日（木）18:30～20:15

会場：光市役所3階大会議室1・2号

【出席者】

- ・委員:15人（代理出席2人、欠席3人）
- ・事務局:6人、株式会社荒谷建設コンサルタント:2人

【内容】

1 開会

● 事務局

- 委員交代の紹介、新任委員のあいさつ
- 代理出席者の報告
- 会議資料の確認

2 会長あいさつ

皆さん、こんばんは。大変遅い時間からのスタートだが、よろしくお願ひしたい。

この委員会も第3回ということで、前回、この委員会がどういう方向性を目指しているのかも議論されたと認識している。県内の駅も少しずつ再生が進んでいるように思うし、まだ企画段階の中心駅も残っている。駅の役割は非常に重要だと思っている。先日、テレビで島根県江津市と広島県三次市をつなぐ三江線が3月末で廃線になるという放送があった。島根県江津市には仕事で行くことがあり、興味深く聞いていたが、駅と駅周辺を考えていくことに併せて公共交通をいかに皆で使うか、大事に維持していくかというスタンスがより重要な側面であると思う。当然、ビジネスで鉄道は走っているので、乗らなくなると廃線ということになる。ソフトも大いに議論していかなければ、維持していくことも、駅周辺のにぎわいも創出できないという印象を持った。今後そういったことに向けて議論していきたい。よろしくお願ひしたい。

3 議題

● 会長

前回の会議で委員の皆さまから意見を出していただいたが、それに対して事務局側でどのように対応したのかを説明していただき、議題に入りたい。事務局、説明をお願ひしたい。

● 事務局

<事務局より資料1～10ページに基づいて説明>

● 会長

ただいま事務局から前回の意見に対する説明があったが、何か質問等あるか。特に検討会議が議論すべき内容と、どういうところに着地をしなければいけないのかが、ようやく少し明確になってきたと思っている。10ページあたりの話について、皆さん共通の認識をいただいたと思っている。

⇒意見なし

(1) アンケート調査結果（確報）について

ア 市民アンケート調査

イ 光駅利用者アンケート調査

● 事務局

<事務局より資料別冊「市民アンケート調査」結果報告書、「光駅利用者アンケート調査」結果報告書に基づいて説明>

● 会長

2種類のアンケート調査の結果についてご意見・ご質問はないか。

● 委員

光駅利用者アンケート結果だが、11 ページの散布図で重点改善領域は何を求められているのかがはっきりわかったということが感想としてある。このあたりを出発点として議論していくことになると思う。13 ページに行政機能の話が出ているが、勘違いしてはいけないと思ったのが、市役所をここに持ってきてほしいという話ではないと思う。どちらかといえば行政の窓口サービス、市民課のように住民票が取れる、印鑑登録ができるなどの機能が通勤時にできれば便利だということである。他の自治体では郵便局で発行できるところもある。いろんな手段はあるので、行政機能の部分は中身としての精査をしていく必要がある。対住民サービスとしての機能がほしいということであって、例えば、担当課の都市政策課が駅前になければならないということではない。それがよりうまく運べばよいと思う。

● 事務局

11 ページについては、アンケート調査結果の報告の中の分類Aの領域は重要度が高いにも関わらず、満足度は低いので、このあたりを重点的に取り組んでいこうと整備をしているので、副会長が言われたようにこの計画を進めていくうえで思案していきたい。行政機能については言われる通りであるし、光市でも今月からマイナンバーカードを所有している方のみだが、コンビニで住民票を交付できるようになった。そうした時代変化を踏まえ検討していきたい。

● 会長

行政機能の選択肢のアンケートを見ると、「市役所の窓口など」と書いてあるが、まさに言われた通りワンストップ型のサービスが求められているということではないかと思う。その他にあるか。

⇒意見なし

アンケートについては結果を十分に踏まえて、次の議論の機会につなげていきたいので、よろしくお願いしたい。

(2) 地区の課題について

● 事務局

<事務局より資料 12～15 ページに基づいて説明>

● 会長

地区の課題について個別ヒアリングの結果、前回お示しした内容にアンケート調査の結果を加えて、若干文言を修正した内容のものであった。これについてご意見・ご質問があればお願いしたい。

個別ヒアリングについては、今回は商工会議所青年部の方々にヒアリングを行っているが、これは今後いろんな組織、団体、グループ等にヒアリングをしていき、これに上乗せするイメージなのか。

● 事務局

今年度、構想策定の過程で他団体の方とも膝を交えて意見交換しながら反映していきたい。順次打診をして機会を作っていきたい。委員におかれても所属団体などでご希望があればお声がけをいただきたい。

● 会長

できればそのときの説明に、地区の課題でまとめられている「1人口、2土地利用・建物、3都市機能、4交通」といった分野ごとの課題を説明していただきながら協議、ヒアリングをしていただきたい。他にはないか。

⇒意見なし

(3) 整備の基本的な方向性（案）について

● 事務局

<事務局より資料 16～20 ページに基づいて説明>

● 会長

ただいまの整備の基本的な方向性についてご意見等をお願いしたい。大きく3つのコンセプト、考え方に基づいて整理ができるのではないかという説明であった。

● 委員

見た目はきれいで良いと思う。「つなぐ」「つどう」「つくる」で「つ」が3つで、「光」を音読みしたら「ミツ」なのでよいと思う。

現状認識のところでミスマッチがあると思う。8ページに瀬戸風線整備前後の交通量が書かれているが、何が問題かという、国道188号は4車線あり、4車線の道路は1車線10,000台と見積もっても40,000台はさばける交通量である。それが17,000台まで減ると予測されている。どんなまちになるのか。スカスカになる可能性がある。朝夕は混雑するが、こういう道路整備をした結果、現道の交通が減ってまちが栄えた例はあまりない。下関北バイパスという道路があるが、このバイパスを4車線に作りなおしたら、現道側は暫定3車線の道路だったので、下関への下りは2車線、上りは1車線と便利が悪かった。ここは県管理道路に変わったが、この道路も沿道にあった商業施設がどんどん消えていった。スーパーマーケットがなくなって困っている山の田交差点が一番混雑していたが、この地区の住民は買い物に行くところがなくなった。光市においては、半分以下に減少するという推計を出しているが、どういう交通の組み立てを行うかを描かないでこの数字が独り歩きすると不安である。これは私が交通関係の問題を扱っているからだとは思いますが、ここはどういった対策にするのか。

光駅そのものの公共交通機能を充実させると、目の前の交通量が減っても賑わいはあるという形になるのか、それとも現在の交通量がさばけないほど交通量があり、混雑しているので減らすというにはあまりにも減りすぎではないかという気もするので、そのあたりは要注意だと思う。21,000 台減ると書いてあるが、半分以下になって沿道の施設が栄えるという感じがあまりしないので、そこは要注意であると感じた。正直なところ、組み立て自体は悪くないと思うが、交通問題、交通変化に対して 20 ページの課題認識の部分が深刻に書かれていないので、どうなのかという気がしている。組み立てはよいが、現実離れしているこの数字で本当によいのか。それに加えて考えると駅周辺に瀬戸風線沿線の駅北側があるが、こちらは完全に住居系なので、そちらに交通量が流れても、そちらへ振っていくわけでもない。受け皿もないところにそういった形で行くのか。うまく説明できないが、感想を述べた。

● 事務局

交通量の変化については国土交通省、山口県の推計結果に基づいている。平成 22 年度なので、少し古いかもしれないが、将来、人口が減少する中で交通量全体を上げていくうえでの瀬戸風線開通後のまとめである。車線数については 10,000 台を超えれば 4 車線という道路構造令という基準があるので、道路そのものの構造は問題ないと考えている。ただ、委員が言われるように光駅北口側の交通量が増える中で、いわゆる土地利用の用途の変更まで見込むのかというところはあるが、この度の構想の 7、8 ページにあるような構想図を作成していく中で、北口にどんな機能を持たせるのかということは考えてみたい。

● 会長

交通量調査は通過交通の推計と認識してよいのか。最終的なアクセス道路の末端交通網ではなく、その時点の通過交通を測定して予測しているという数値なのか。

● 事務局

そうである。断面での通過である。

● 会長

アクセス交通であれば目的地へアクセスする車は何万台減ると、かなりの経済的インパクトがあるかもしれないが、要は東西へ通過していく通過交通の渋滞を避ける 1 つのバイパス的な扱いになっていることをどう考えるかが 1 点と、もう 1 点はここで挙げている 3 つの考え方は、車というよりも駅周辺の機能をどのように充実させて人々を集めて、駅利用、利便性を高めていくか。ここに「回遊」という言葉が抜けているので、追加しておいてほしいが、そこに来た人たちが車ではなくて、虹ヶ浜までをある程度回遊できる機能を点在化するような、緑でつながるようなイメージのコンセプトではないかと思った。

交通量が減るということはこれにはあまり触れられてなく、通過交通として考えられており、ここで集積していき、回遊が起こるということを目指しているようなコンセプトの書き方になっているのではないかと思った。いかがか。

● 事務局

交通量の話に戻ると、北口側に交通量が増えるということは、駅利用者、送迎等も含め、交通結節機能を有する駅としての北口の利用の仕方はこれまでとは変わってくるものと考えているし、交通結節機能としての北口の充実というのは公共交通網の形成計画の中でも行っていくこととしている。それに対して、最初の会議で説明させていただいたように、

光市の特徴は大切な財産である美しい虹ヶ浜海岸が近いということが強みだと思うし、駅から歩いていけるような、「回遊」というキーワードが良いフレーズだと思うが、そういったことも考えていきたいと思っている。

● 会長

確認だが、先ほど聞いたのは、推計をするときの算出根拠として、駅北側の利用率をある程度持って推計しているのか。もっていなければ通過交通だけの計算になる。その重みづけをして、この計算結果になっているのか。

● 事務局

通過交通だけであると思うが、詳細についてはわかりかねる。

● 会長

であれば、先ほど言ったように、駅利用の台数を踏まえればこれだけ減らない可能性もある。数字は独り歩きするので、根拠を明確にしてほしい。

● 委員

極端な言い方をしたが、会長が言われたことが正解で、これは瀬戸風線の評価とか22年ベースの将来推計で瀬戸風線が通ればこういう推計結果が出ているというだけである。光駅周辺の拠点性がこれから高まらなければ、このままになってしまう。なので、ここに拠点性を持たせたときに新たな発生集中が生じることで、プラスアルファが出てくるという書き方、持っていく方にしないと、この数字だけ出してしまうと誤解されてしまう。半減というのは死活問題である。半減するという前提なのであれば、どういう対策をするのか、駅周辺だけではなく、駅から東へ向かう道路全体で考える視点も持たなければいけない。

● 会長

数字の怖さというものがあるので、正確なところを皆さんにご理解いただけるように出していきたい。

● 委員

この会が2年間で7回くらい開催されると聞いたが、全体計画が全て完成するのは何年後くらいなのか。

● 事務局

資料10ページをご覧いただきたいが、赤枠で囲んである「光駅周辺地区拠点整備基本構想」は去年から着手し取り組んでいるが、予定としては来年3月、年度では今年度中にこの構想を取りまとめる予定である。

● 委員

突飛なことを言うようだが、先ほどの交通量の減少の話は前回私も調べてほしいと言ったと思うが、やはり減少する。南側の商店街が気になる。余計なことかもしれないの言いくいが、瀬戸風線を予定の地区に整備するのをやめて、今の駅を通るような大幅な計画変更は可能なのか。なぜかといえば、下松、徳山、岩国は（商店街を）通れる道路ができていますが、皆さんあまり通らない。電動車いすとかは通りにくいのか、あまり行き来がない。もっと車が通れる道路を作った方が、例えば北側の方も夏に海に行きやすいとか、駅の南の商店街に通うとか、といった動きができるだろうし、いかがか。かなり突飛なことを言った。

● **事務局**

瀬戸風線の計画については、長年の懸案で県にも取り組んでいただいているが、あと何年かでやっとという部分もあるが、この計画のルートを変えるということはないものご理解いただきたい。

● **会長**

県の都市計画審議会の会長をしており、この案件はパスしたところである。もし、そうならば都計審に挙がってくると思う。

● **委員**

すでに出ているのであれば申し訳ないが、この構想案の中での「駅の橋上化」は前提になっているのか。

● **事務局**

上位計画である「第2次光市総合計画」の中で、駅の橋上化を重点的な取組みとして掲げており、鉄道事業者、関係者の皆さまのご協力のもと、橋上化に向け取り組んでいくことをお示ししており、この構想の中でも位置付けていきたいと考えている。

● **委員**

皆さん方もご存じとは思いますが、光駅はまちのはずれにある。普通、まちというものは駅を中心に広がっていき、大きくなっていくと思うが、光市の場合は浅江、島田、光井、室積と横に長いまちであり、まとまりのないまちである。だからこの拠点化が必要だと思うが、その特異性を考慮しないと、駅の周りを活性化することは大事なことだと思うが、特異性を考えていただきたい。

それともう1つ、北口側に光総合病院ができるが、北口から病院までの交通手段はどうなっているのか、駅から歩いていくことになるのか。リムジンバスなどが北口と病院の間を運行してもらえればよいが、どのような計画か。

● **会長**

1点目はいくつか拠点の位置があり、それに配慮しての駅周辺整備を考えているのかということと、もう1点は、北口を考えていくうえで新病院への交通アクセスはどのような予定なのか、という2点であった。

● **事務局**

資料1ページをご覧いただきたいが、右側に光市の形を載せている図がある。これは都市計画マスタープランで位置付けているエリアであるが、赤丸で囲んでいるのが、光駅周辺地区、市役所周辺地区、岩田駅周辺地区の3つである。この3つが光市の都市拠点地区と位置付けており、このエリアについては計画づくりを進めている立地適正化計画の中の方向性ということで役割分担を持たせながら拠点づくりを進めていこうとしている。光市は歴史的な経緯から地形的な制約もあるが、まちが分散している形になっており、言われた通り、駅が行政区域の西の端にあり、行政機能を担う市役所も遠いということもあるが、それぞれの地区の特性を活かしながら、光駅周辺地区は“にぎわい”に満ちた都市拠点づくりをしていこうとしている。

また、光総合病院のアクセスについては、これは、バスや鉄道関係などの公共交通を取りまとめる部署が担当となるが、昨年、光市地域公共交通網形成計画を策定した。高齢化が進む中、公共交通を活かしたまちづくりといった計画の中で、「光総合病院の移転新築に

伴う公共交通の結節」といったものを位置付けている。具体的な取組みはこれからになるが、光駅から新光総合病院に公共交通でアクセスできるような取組みを進めていくことを掲げており、担当部署において検討が進められている。

● 会長

私から補足させていただくと、先ほど事務局からの説明にあった1ページの右側部分は、光市ではこれから人口が減り、高齢化していく中で、効率的な財政投資を考えていこうということで、都市をコンパクトにしてそれを公共交通でネットワーク化する、立地適正化計画という計画を策定中であり、その中である程度集積性をもった利便性の高い拠点を位置付けながら、そこにいろんな交通やにぎわいをつなげていくという考え方で進めている。まだ策定中であるが、その拠点が3つ示されていて、その3つの拠点を位置付けながら性格付けをしていこうとしている。光駅周辺では人口密度が高いことと、他の地区よりは若干高齢化率も低いことなどを含めて、駅を使った再生を考えていくという流れになっている。この検討委員会の資料もそれを踏まえて提出されていると認識している。

また、北口と病院の関係は、先ほど事務局が説明した17ページの「市民をつなぐ」の3つ目に記している。新病院は駅から1kmのところであり、不便になる可能性があるので、ここに書いてあるように新光総合病院との連絡をはじめ、各種交通機能とうまく接続するといったことが記載されている。行政としても取り組んでいくと宣言していると理解している。他にはないか。

● 委員

光市は昔から地形的にまちがポツポツと点在しているので、拠点をつくることはよいことだと思う。いろいろな話の中で駅の周辺を1つの拠点としてにぎわいのあるまちづくりをするということであるが、それに対するバリアになるのではないかとということが3つあると思う。1つは光駅が橋上化することになっているが、どういった形の橋上化なのか。つまり南側と北側との間をどういう形でつなぐのかということが1つある。県内の防府駅も岩国駅も変わっている。徳山駅は9時までは本を読みながらコーヒーも飲めることも含めて、複合的な施設になっている。橋上化というのがどうなのかというところが、駅の周辺のにぎわいを作る1つのポイントかなと思う。

もう1つは先ほどにもあったが、瀬戸風線は光市民にとって長い（年月を要した念願の事業であり）、特に虹ヶ丘に住んでいらっしゃる方はわざわざ下松市や周南市に（買い物に）行かなくてもよい年代になられた。瀬戸風線が抜けるというのは長年の夢であった。昨年、地域で県から説明があったが、早くてあと10年ばかりかかると言われた。門蔵山の向こうに一度出してから流すという計画だが、私はそこまでは交通量は減らないと思うが、かなり減るのは確かだろうと思う。瀬戸風線の影響を踏まえ、駅前の賑わいをどのように生み出していくかということを考えていく必要がある。

最後は白砂青松の虹ヶ浜海岸についてであるが、これは国立公園であるため中に入ってしまうことはできないと思う。手前の部分での整備となると、それだけいろいろなスペースが確保できるのか。幸いにも光総合病院が北口のほうに移転するので跡地が空いてくる。白砂はあるが青松はなかなかない。憩いの場を十分に踏まえた都市にしていくのが大きな課題であると思う。大きな課題をどうするかということも視点において話を進めていただければよいと思う。

● 会長

3つご指摘があった。1つ目は橋上化のイメージをもう少し具体的に考えてもよいのではないかということ、2つ目が先ほどから出ている瀬戸風線の影響をもう少し基本構想に盛りこまないといけないこと、3点目が虹ヶ浜を活かすとしても、スペース的・空間的な問題が出てくるのではないか。いじれる場所が少ない。1つは病院跡地が出てくるかもしれないが、そういったところの連続性はどうなるのか、という3点がハードルになるのではないかというご指摘であった。事務局はどうお考えか。

● 事務局

1つ目の橋上化、駅の南北のつながり方については県内の駅でも橋上化整備が進められているが、この度の基本構想の中では具体的な記述には至らないと考えている。先ほども説明させていただいたが、10ページのピラミッドのところで、例えば橋上駅プラス新たな自由通路を整備するということになると、どの位置に通路を設けるのかといったことは、基本設計の部分で図面等が出てくると考えている。構想の中では具体的なものはないとご理解いただきたい。ただ、委員に申し上げたいのは防府駅のことを言われたが、防府駅については駅の前後、南北数kmにわたって線路全体を上にあげて、駅を上にあげたのではなく、線路全体をあげて、線路の下を車が行き来できるような大掛かりな事業をされた。防府駅のようにするというよりは線路の上に駅がくる徳山駅や新しくなった岩国駅のイメージをもっていただければと思う。

● 委員

そのようになればよいと思っている。プラットフォームに上がるまでに息切れがする。2段階になっており、一度上がったと思ってもまた上がらなければならない。

● 事務局

2つ目の瀬戸風線開通後は大きく交通量の変化が見込まれ、これまで国道188号に強く依存してきた光市の自動車交通は大きく変わっていくのだろうと思う。会長からも指摘いただいた単なる通過交通と、駅周辺を利用する交通について、どこまで描けるのかということを考えていきたい。

3つ目の虹ヶ浜は国立公園であるとのことご指摘であった。瀬戸内海国立公園第2種特別地域に指定されているので、様々な制約がかかっている。ただ、この度の構想づくりにあたっては、海岸部分の積極的整備というより、虹ヶ浜海岸とのつながりを意識しつつ、回遊というご提案もあったが、訪れた人が楽しく歩いて、景色、雰囲気を楽しむといったソフト面からの仕掛けも大切になるのかと考えている。この度の構想案の中で、どこまで描いていけるのか検討していきたい。

● 会長

今回の周辺拠点整備基本構想検討会議は全てが公共事業で担保される計画ではないと認識している。当然、民地もあるだろうし、経営者もおられるし、いろんな形で「チーム光市」という言葉がどこかにあったが、行政、民間とタッグを組んで進めていかなければいけないようなことがかなり多くあると思う。行政の行うことだけを議論していくというよりも、行政が一手を打てば民間がどう動けるのかということろまで、1つ進めた形での意見等を言っていただくと、構想に盛り込みやすいのではないかと思う。例えば、南北をつなぐと果たしてどういう効果が現れて、どういうことが可能性として出てきそうなのかと

いうご意見をいただければ、可能性を膨らませようとか、可能性にかけてみようとか、いろんな意見がつながってくると思う。具体にするのはもう少しあとになるかもしれないが、具体にする手前の部分をぜひ、いろんなアイディアなり、効果なりを皆さんからいただきたいので、よろしくお願いしたい。

その他いかがか。今日、発言ができなかったことがあれば、事務局に遠慮なくご連絡いただきたい。

4 その他

今後の取組みとスケジュールについて

- 事務局

＜事務局より資料 21 ページに基づいて説明＞

- 会長

ただいまの説明について何かあるか。次回は夏前をめどに開催されるということなので、引き続きよろしくお願いしたい。

全体を通して何かあるか。なければ事務局へお返しする。

⇒意見なし

5 閉会

- 事務局

本日ご発言できなかったご意見・ご提言等あれば随時事務局に連絡いただきたい。